NIMD ニュース

360度VR動画を近日公開予定！

360度どの方向でも撮影できるドローンを使い、NIMD周辺やエコパーク水俣「まなびの丘」周辺を撮影しました。VRゴーグルを使って見ると、自分が鳥のようになって空を飛びながら景色を眺める体験ができます。水俣病情報センターに来場した際、VRゴーグルを使って視聴できるように準備中なのでお楽しみに！

国水研の動き

令和4年2月～7月

2/15～16	内部研究評価会議
3/17	研究評価会議
4/8	国保水俣市立総合医療センター 新入職員研修受入れ
6/3～8	国立水俣病総合研究センターVR撮影、 ドローンVR動画撮影
6/6	よかボス企業登録
6/28	針田 哲 新所長就任
6/28	長崎大学大学院熱帯医学・グローバル ヘルス研究科短期フィールド研修実施
7/15	機関評価委員会
7/22	菊池恵楓園視察
7/31	みなまた競り舟大会出場

国立水俣病総合研究センター（NIMD）のロゴマークについて

「水」の字をもとに、水俣の川と海をイメージし、また左側は「大人」、右側は「胎児」と水俣病で犠牲になった方々をも表しています。環境汚染による被害が二度と発生しないよう思いを込めて、「本来あるべき美しい自然の色」である水色や緑色で表現しました。

NIMD　National Institute for Minamata Disease

- みなくるバス
  青バス湯の児線 とんとん峠下車 700m（徒歩約12分）
- JR 新水俣駅から5.5km
- 肥薩おれんじ鉄道 水俣駅から4.6km

Facebookでも情報発信しています！

NIMD PLUS YOU　ニムド プラス ユー
No.53（2022.10）

編集・発行　環境省国立水俣病総合研究センター
〒867-0008 熊本県水俣市浜 4058-18
TEL 0966-63-3111　FAX 0966-61-1145　ホームページ http://nimd.env.go.jp

NIMD PLUS YOU

環境省 国立水俣病総合研究センター 広報誌　ニムド プラス ユー

研究室の紹介

基礎研究部
基礎研究部長研究室

国際・総合研究部
地域政策研究室

トピックス

みなまた競り舟大会
よかボス企業登録

No.
53
令和4年（2022年）10月発行

http://nimd.env.go.jp

はじめに

「NIMD＋you」を手にとって頂きありがとうございます。「NIMD＋you」は、
環境省国立水俣病総合研究センターの日々の活動や研究成果を、
できるだけ分かりやすくお伝えすることを目的に平成26年に創刊しました。
今号よりデザインをリニューアルして、
より皆さまに伝わりやすい誌面を心掛けお届けします。
研究室紹介では、日々の研究室の取り組みや成果について情報を発信しており、
今号では、基礎研究部長研究室と地域政策研究室を紹介します。
また、NIMDトピックスでは、水俣の夏の風物詩である「競り舟大会出場」や
「よかボス企業登録」の紹介について掲載しております。
今後も皆さまのご意見などをお伺いしながら誌面を充実させ、
情報発信を行っていきたいと思います。
引き続きご支援をよろしくお願い致します。

組織体制

国立水俣病総合研究センター 所長就任挨拶

所長　針田 哲

このたび、国立水俣病総合研究センターの所長に就任いたしました針田哲です。
出身は北海道で、地元の大学を卒業した後、厚生省に就職しました。これまで、茨城県、岐阜県、石川県などに出向し、今回初めて九州で仕事をさせていただくことになりました。私が慣れ親しんだ釧路の海は、黒に近い濃紺で、こちらの海とは少し色が異なりますが、海沿いで育ったためか、海の近くにいると落ち着きます。海のある水俣で仕事ができることに感謝しております。
前職は、国立国際医療研究センターの企画戦略局長を拝命していました。同センターは、日本有数の救急患者受入施設であるとともに、新型コロナ感染症に罹患している患者さんの手術や出産にも積極的に取り組んでおり、診療や研究のスタッフを支える業務は、大変遣り甲斐がありました。
その他、日本医療研究開発機構（AMED）では健康・医療関係の研究のサポートをしたり、自治医科大学では地域医療に取り組む卒業生を支える部門で働かせていただきました。
国立水俣病総合研究センターでは、研究者や職員からの意見をいただきながら、国民の皆さまのご期待に応えられるよう研究を推進していきたいと考えています。当センターは、これまでもWHOなどから国際的に評価される研究を重ねてきており、今後も、その使命を果たしてまいりたいと考えています。
引き続きのご支援ご協力をいただければ幸いです。宜しくお願いいたします。

新入職員紹介

この度、国立水俣病総合研究センターへ入職しました久多見健太と申します。所属は臨床部・総合臨床室です。出身大学は熊本保健科学大学で、臨床検査技師の国家資格を取得しました。中学時代から卓球を続けており、コロナ禍で練習の機会が減ってからはテレビやYouTubeで試合を観ることにはまっています。脳波や筋電図など神経生理の検査を正確に実践し、臨床部での研究に役立てるよう精一杯頑張って参ります。これからどうぞよろしくお願い致します。

入職した久多見健太

国水研の 研究室

NIMD Laboratory

基礎研究部

基礎研究部長研究室

研究室の取り組み・目的

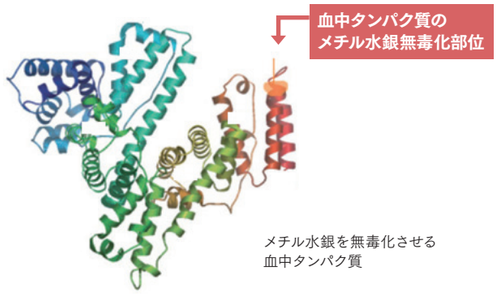
水俣病の主な障害器官は脳神経系であり、その不可逆的な神経機能障害は未だ最も大きな問題の一つです。当研究室では、分子レベル（遺伝子、タンパク質）、細胞レベル（培養細胞）、個体レベル（実験動物）、そして人体レベル（病理組織）からの総合的アプローチにより、水俣病の原因物質であるメチル水銀による神経機能障害の病因と特性を解明し、その研究成果を診断、予防及び治療へ展開することを目指しています。

下肢へのVibration 刺激

研究内容

メチル水銀中毒の予防及び治療薬の研究

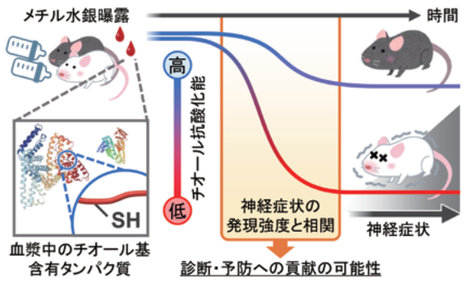
メチル水銀による神経機能障害は早期の進行抑制によりその神経症状を軽減可能であり、さらに一旦進行した神経症状についても機能を回復できる可能性もあります。そこで私たちは、実験動物を用いて“メチル水銀による神経機能障害に対する薬剤等の予防及び治療効果についての研究”を行っています。



メチル水銀を無毒化させる
血中タンパク質

メチル水銀中毒の診断のためのバイオマーカーの研究

血液中にはメチル水銀を無毒化させるタンパク質が存在し、その機能を測定すればメチル水銀毒性に対する個体別の脆弱性を診断することが可能になります。そこで私たちは、“メチル水銀中毒における脆弱性診断のための血中バイオマーカーの研究”を行っています。



血中のメチル水銀無毒化と神経症状発現の関係

Photo by Tomomi Morita

国際・総合研究部

地域政策研究室

研究室の取り組み・目的

地域政策研究室は2015年にできた新しい研究室です。前身は社会科学研究室で、水俣病裁判で国の責任が確定した翌年の2005年に設置されました。工場排水による汚染拡大を食い止めなかった責任を負う国の一組織として、地域再生、地域貢献を目標に研究と業務に取り組んでいます。水俣市や水俣高校と連携協定を締結し、水俣市社会福祉協議会や水俣病関係諸団体の協力を得ながら、さまざまな手法を活用し、地域再生に関する業務と水俣病被害に関する社会学的研究を進めています。

長崎大学大学院の研修生へ講義を行う松山室長

研究内容

胎児性水俣病患者さんの社会的環境について

胎児性水俣病として初めて1962年に認定された患者さんの多くは、幼い時から医療スタッフ、メディア、支援者、研究者などに囲まれてきました。家族と離れて医療施設に入り、50年以上経った今も施設に暮らしている方がいます。一方で、家族による在宅介護を続けている方もいます。親は亡くなり、きょうだいや配偶者がサポートを受けながらお世話をしています。患者さんがどのような社会的環境のもと暮らしてきたのか、「生きづらさ」や「希望」などについて、過去のインタビュー記録や文献資料を基に研究にまとめました。

作業中の胎児性患者さんの手
Photo by Nonoko Kameyama

水俣病のフィールドにおけるアートの導入

社会問題や紛争の起こった地域においてアートを用いた支援が有効であることが学術的にわかっています。2019年に二人のフランス人アーティストが水俣を訪れ、「廻り道のダンス in Minamata」という参加型のプロジェクトを実施しました。津奈木町を含む12か所で延べ120人が参加しました。ダンスの「自由な動き」により、参加者は言語化されない水俣の物語を体験し、患者さんたちの意思を感じ、固定概念に気づかされました。このプロジェクトをケーススタディとして、写真家と研究者で記録し、解釈をしました。

チッソ旧工場で輪になって踊る
Photo by Nonoko Kameyama

NIMDトピックス その1

みなまた競り舟大会

明治時代から続き水俣市の夏を彩る風物詩「競り舟大会」が3年ぶりに7月31日（日）に開催され、多くの出場チームが熱戦を繰り広げました。

水俣川河口に響くカーン！カーン！という鐘の音を聞くと、本格的な夏の到来を感じる水俣市民も多いのではないでしょうか。国立水俣病総合研究センターも「チーム国水研」として出場しており、チーム一丸となって全力でオールを漕いで大会を盛り上げました。今後もチーム国水研は競り舟大会を盛り上げていきます。なお、準決勝まで進出し惜しくも敗退となりましたが、水俣市長より「特別賞」を頂きました！

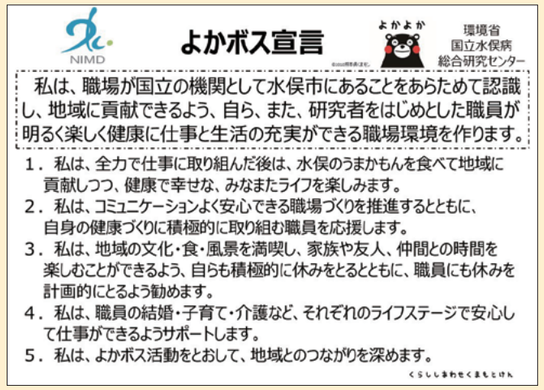
特別賞を受賞しました！

NIMDトピックス その2

国立水俣病総合研究センターが よかボス企業登録

国立水俣病総合研究センターが「よかボス企業」に登録され、熊本県知事より登録証とピンバッジを頂きました！「よかボス」とは、自ら仕事と生活の充実に取り組むとともに、共に働く社員や職員、従業員等の仕事と生活の充実を応援するボス（企業の代表者等）のことで、熊本県が推進する事業です。熊本県では、県民一人ひとりの幸せな人生の実現のために、県民の総幸福量の最大化を目指して、企業のトップが、社員の仕事と、結婚や子育て介護などの充実した生活ができるよう応援することを宣言する「よかボス宣言」にオール熊本で取り組んでいます。

登録証と国水研のよかボス一同



よかボス宣言

環境省
国立水俣病
総合研究センター

私は、職場が国立の機関として水俣市にあることをあらためて認識し、地域に貢献できるよう、自ら、また、研究者をはじめとした職員が明るく楽しく健康に仕事と生活の充実ができる職場環境を作ります。

1．私は、全力で仕事に取り組んだ後は、水俣のうまかもんを食べて地域に貢献しつつ、健康で幸せな、みなまたライフを楽しみます。
2．私は、コミュニケーションよく安心できる職場づくりを推進するとともに、自身の健康づくりに積極的に取り組む職員を応援します。
3．私は、地域の文化・食・風景を満喫し、家族や友人、仲間との時間を楽しむことができるよう、自らも積極的に休みをとるとともに、職員にも休みを計画的にとるよう勧めます。
4．私は、職員の結婚・子育て・介護など、それぞれのライフステージで安心して仕事ができるようサポートします。
5．私は、よかボス活動をとおして、地域とのつながりを深めます。

くらししあわせくまもとけん

国水研の宣言内容